

# 會 報

昭和 26 年 8 月発行

## 淡水サッカー倶楽部

### 第 1 号会報目次

OB 倶楽部に望む	神戸商大サッカー部長 田中 博
OB 倶楽部強化に際しての感想	1 回生 松田俊治
我が蹴球部の創立時代	1 回生 安井喜三郎
妄想銘々傳	2 回生 吉井 誠
蹴史の三代目	3 回生 田村 善太郎
多忙の中	4 回生 神田 好之助
近辺の人々	5 回生 横尾 進三
随 想	5 回生 岸井 隆成
蹴球部の発展を祈りつつ	15 回生 田淵 栄三
対早大戦を顧みて	学部 1 回 三木 健次
社会人になって	学部 1 回 藤川 豊明
秋リーグ戦の抱負	現役主将 岡本 裕次
本年に於ける OB 現役の会合状況	現役マネージャー佐藤昭五郎

### OB 倶楽部に望む

神戸商科大学の蹴球部に対し、卒業生諸君が精神的にも財政的にも多大のご援助にあずかっていることに対して、深甚の謝意を表します。

思うに神戸高商の運動部は関西スポーツ界の花形であったことは卒業生諸君のよく知るところであります。商大となってからはいささか沈滞の状態にあり籠球部野球部共に往年の生気を失い排球部又二部に落ちたこともあった有様でした。独りサッカーのみは 20 年間一部にあつて関西蹴球界重きをなしていることは御同慶の次第です。これは部員諸君の努力による以外先輩諸氏の絶大なる後援の賜物というべきであります。もしも本年の朝日招待サッ

カーの開催前に激励会が無かったとしたら、あの輝かしい成果は収められなかったと、と今でも信じています。商大の運動部の盛衰は、先輩諸氏の後援の反映とも言うべきです。ラグビー部が崩れそうで崩れないのは先輩が確りしているからです。

唯サッカー先輩諸氏に望蜀の言を呈示しますならば、早く OB クラブが出来て、現役生をグラウンドで鍛えて頂きたいことです。今回田村会長の努力によって、OB クラブに活を入れることとなったのは極めて喜ぶべきことで、今後の OB の会合には出来るだけ多数の先輩諸氏が一堂に会せられ往年の自慢話、失敗談に花を咲かせて頂きたいと思っています。

田中 博教授

# 我が蹴球部の創立時代

## 1 回生 安井 喜三郎

### (まえがき)

昭和4年といえば随分昔のことだ。もう22年も経つんだから。その時我々は、神戸高商の1年生として、嬉々として入学したのである。今から考えれば、まだ若かった。いやまだ子供だった。

それが今では皆子供が出来て、その子供さえ、間もなく大人に成ろうとしている。こんな永い間経過していても、その時の我が蹴球部員の友情は今も親しく保たれ互いに交際しているのは、スポーツマンシップの賜物であり、苦楽を共にしたお陰であると信ずる。

その時分出来た我が蹴球部はまだ貧弱なものであったが、年と共にだんだんと充実して、中には全盛期あり、大谷・前川・岡田・小橋・室山等の傑出した選手が出たり、又戦争中の衰微した時代等あったりして二十数年を過ごして来たが、近年我が蹴球部の再建なって、全盛時代を再現しようとしている。実に嬉しい限りだ。

OBクラブに於いても我々卒業以来毎年先輩・後輩相集って、一日を楽しく暮らす会を催してきたのだが、戦争で中断してしまった。それも一昨年来再開の運びになり、今回会報まで出版されるというので、嬉しさの余り、多忙の中から、投稿させて貰うことにした。

### (第1年目)

上筒井の元の縣商の内へ仮校舎が出来て、「我々1回生150名が入学した時、先輩は居らず無論運動部とても無いんだから、フットボール愛好者は、各自でボールを持ってきて、蹴るより他に方法はなかった。それに入学そうそうで生徒間の馴染みも薄いので、誰がサッカーが出来るのか分からない。中学出では僕と千葉君が休憩時間中にボールを蹴りながら、サッカー部を作る相談をしたりして、松崎・草薙・守屋・遠藤の諸君が参加してきた。

その時、一方商業出では松田君と塩崎君とがやはりサッカー部を作る相談をしていて、名塩・山本・久井の諸君が参加してきた。2学期になって、初めて蹴球部が正式に学友会の一部として出来上がり、僕が委員になった。予算会議の時、金五十円也の予算を貰った。この時の部長は一谷教授だった。兎に角五十円貰ってボールとポンプを買うことが出来たので、中学出と商業出が合同して、ここに初めて練習に取り掛かったが、素人が多かったので、その技量たるや実に貧弱なものでカナデアンスクールや県商や御影師範等と試合をしたが、勝ったり、負けたりと不調子だった。かくして第一年目は試合という試合もせず終わった。それでもチームはどうやら出来上がって、僕がCF、塩崎君がRW、千葉君と名塩君がハーフで松田君と久井君がFBと一定ポジションにつき、そのほかの人は何のポジションでもその時の調子により自由ということであった。

### (第2年目)

仮校舎がやはり上筒井の、旧関学中学部の跡に移って、運動場を自由に使えるようになった。第2回生が入学してきて、名選手大谷君の外、吉井・山本・木村・鈴木の諸君が新たに入部し、ここに我がチームも一段と補強された。その代わり、一回生の久井・山本・守屋・遠藤の諸君が退部した。

蹴球部委員に僕が重任ということになって、今度は金百円也の予算を貰ひ、それで白と青の棒縞のユニホームを作った。部長には新たに來られた田中博先生を迎えた。この時の先生もまだ若く、ラッセルの渾名もまだ命名されていなかった。そしてそれ以来ずっと今日まで我が蹴球部の部長をせられているのである。名塩君が練習の帰途焼き芋をたべさされて「嗚呼聖人も廢れたり」と泣いて歎いたのも此の時代だ。

一中や御影・関学等の中学級と試合をしたが、大体勝っていたようである。秋のリーグ戦には出る準備をしていたのだが、いろんな関係で参加できなかった。若しその時出場していたら二部でこの年でも優勝は出来ていたと思う。然し練習だけは随分やったものだ。このころから僕は身体を弱くしていたのと、ゴールキーパーをするものが誰もいなかったのが僕がキーパーになりここに迷キーパーが出来上がった。

秋のミナト祭りに神戸市主催の体育会で或るクラブとサッカー戦を行い、勝って楠公の兜とメダルを貰ったのが嬉しかった。その兜を校長室に飾って置いたのだが、その後どうなっているかしら。

### (第三年目)

愈々待望の垂水の本校舎に移ることができた。上山・川野・中浜・龍治の諸君が入部してきて、我が蹴球部もいよいよ充実し強固なる陣営を作ることが出来た。

松田君が主将となり、木村君がマネージャーになった。松田君の統率よろしく部員一丸となって猛練習を始めた。部員統率上闘将塩崎君を除名したことは、我が部にとっては誠に惜しいことであつたが、涙をのんで言い渡した。しかし実力は二部優勝には充分であつたし、もし昨年加入して一部に昇格していたら、東大・関学に次いで三位には食い込んでいたであろう。その時分ユニホームを白地に赤の折り返しに変えた。かくて9月上旬奈良で合宿して来る秋のリーグを目指して猛練習を開始したのである。

いよいよリーグ戦が始まった。我がチームは連戦連勝破竹の勢いで相手を零敗に降し、最期に力戦したのはリーグチーム中最も強敵といわれた大阪高医と同志社大学とであつた。

大阪高医戦では前半1:1の同点のまま後半戦に入りタイムアップ5分前、相手の猛襲を松田君と小生とのコンビよろしく防ぐことができ、反対に味方の逆襲となり中浜君のシュートは止めの一点となり、逆に勝つたのだつた。この時、小生は頬に大傷をして、厚(ママ)顔の美少年も台無しになった。

最後の同志社大学との一戦は南甲子園で行われたが、この日風強く、実力に於いては数段の優位にありながら、点数差は僅かで勝つことができた。遂に全勝した。遂に優勝したのだ。

甲子園原頭はるか西方に日の將に没せんとする頃、母校応援団に見守られながら、部員一同輪になって校歌を合唱した。皆泣いていた。しまいには声も出なくなっていた。榎崎講師もあの黒い顔から真白い歯を見せてグラウンドに降りてこられた。我々在学中の懐かしい思い出である。

一部の最下位大阪商大とのチャレンジゲームは先方棄権のため、我が神戸高商は来年度より一部昇格と極まり、光輝ある連盟加入第一回のリーグ戦は終わったのである。その時のメンバーは次の如し。

FW 松崎・草薙・大谷・上山・中浜 HB 千葉・山本・名塩 FB 川野・松田 GK 安井

### (あとがき)

部の強弱は技術のみではなく、チームワークが大切であることが、この試合で体験させられた。

後輩諸君も技を磨くとともに、部員一同の融和に協調せられたい。爾来二十余星霜を過ぎた今日その当時の球友は猶、学生時代の友情を以て、行き来しているのである。後輩諸君も球友の今の友情を何時までも続かすと共に先輩を兄とも親とも思つて慕えば我が部の発展はもとより個人の益するところ大きなものがあるであろう。

一回生個人評 松田俊治君・学生時代軟派の第一人者・別名亀俊という。我ら球友は彼のランデブーに後ろからついていくという次第だつた。ところが今では大の謹厳家松田商店の社長として母校淡水会の大立者としてまた商工会議所議員として大いに社会に活躍。千葉隆資君・純粋のクリスチャン。真面目そのもの今も昔も変りない。日本水産の主計課長として活躍。先日煙草を飲めと小生にシガレットケースを差し出したので驚いた。クリスチャンではあるが交際上止む無く酒や煙草を稽古している由。名塩喜一君・在学中優等生であり聖人であつた彼、体力にもおをいわせて試合に頑張つた彼も卒業後はそのエネルギーを麻雀と00に費やしている彼である。將に松田君と正反対日本紡の会計課長として活躍。我ら仲間の成功者の一人。松崎五郎君・在校中成績もよく真面目な御仁。しかし我らとともにローマンズの持ち主。卒業後職業を転々として今は市役所の住宅係長さん。一寸役人臭くなつたのが玉に疵。草薙馨君・学生時代からの勤勉家。好人物。美しい奥さんを持った幸福者。協和銀行の神戸支店長代理。ただし諸君金を借りにいっても駄目ですぞ。安井喜三郎君・学生時代のローマンズは名高いものである。ローマンズに比し職業は終始変わらず終戦後特に重要視された特別公認会計士試験に合格。現事務所は拡張につぐ拡張。一流会社の監査で経理関係を悩ませることだろう。

## 蹴史の三代目

## 3回生 田村善太郎

一回生の安井氏の創立時代の蹴史が得られたので、その続編として二代目、三代目にあたる昭和7年、昭和8年の活躍状況を書かせて貰う。古い記録であるので記憶にも間違いがあると思うが、気のつかれた方は知らせてください。訂正します。

### (四年目)

一回生のベテラン松田・名塩・安井・草薙・千葉・松崎君と地味ではあるが渋いプレーヤーを送り出して、四年目は大谷君を中心とした技能的に特長のある頭脳的なチームが結成された。大谷・前川のオリンピック級に対し一級も二級も劣るレギュラーが混じていたので、チームワークには全員違った意味で苦勞した。

練習は春から開始、学校をさぼっても練習だけは欠かさなかったのは大谷君を筆頭に数名あったが、それは一回生の申し送りではないが二回生も継承した。大谷君の指導でチームの班もどうにか纏められ、レギュラー6名の穴埋め出来、夏の合宿では猛練習とともに部員の融和団結は堅固なものとなった。

この年初めて六高との定期戦が春秋二回に互り開くこととなった。春は岡山へ遠征、粘りある六高と接戦の末勝ったと記憶する。秋は母校グラウンドで二回戦を行なったが、リーグ最中で大事を取り、辛敗したと思う。最期まで試合を捨てず粘り抜く六高の特長は定期戦を意義づけ教訓となった。

リーグ加盟と同時に二部で優勝、この年から一部の歴史ある関学・京大の強豪と試合をすることになった。大谷君の超人的な活躍で如何に強固なバックを擁していても、一点は胸のすくようなシュートが決まっていた。それだけマークされ、このマークを外すのに全員が苦勞した。この当時は関学・京大の全盛時代でオリンピック級を数人揃えており、纏まりのある両校並びに関大には勝てなかった。一回生の粘りのあるバックスの卒業が影響していたのであり、高商の学制三年が怨まれた。特に俊足で技術的に上昇期にあり期待されていた鈴木君が病のためリーグに参加できなかったのは悔やまれる。だがリーグ成績は4位となり、ここに一部における神戸高商サッカー部の伝統の基礎が確立された。

回生	4	3	3	2	2	4	4	3	2	4	4	主将	MG
	木原	川野	中浜	吉井	山本	渡辺	松本	上山	大谷	前川	神田	大谷	木村
	GK	LF	RF	LH	CH	RH	LW	LI	CF	RI	RW		

### (5年目)

ゴールゲッター大谷君を始め山本・吉井・鈴木君を送り、今年は二部に転落するのではないかと先輩は疑視した年である。三回生は秘かに猛練習を以て技能低下を補いチームの力を十一人の総和をもって、十一人より以上に発揚すべく努力した。如何に猛練習をしてもそれでいいと自惚れるのを警戒した。へばっても、へばっても何くそと最期の底力を出し得るような練習方法を採用した。この試練はリーグ成績にも現れたが、社会人となってからも全員に貴い体験として精神的に得るところがあったと思う。六高との定期戦は私が関大との練習試合でヘディングの際、肩に相手の歯が当たって三針程縫ったため包帯姿で観戦の已む無き姿で残念乍引き分けとなった。秋は神戸市民グラウンドで楽勝したと思う。

夏の合宿は体力の培養と部員の融和を目的に例年通り奈良で実施した。秋のリーグ開始前最後のチームワーク強化のため母校グラウンドで合宿、山本先輩の鉄の指導を受け疲れた身体を夕暮れに霞む淡路島の景観に心を癒やしながら垂水の海辺の木材屋まで急いだ。リーグ第一試合は関学と対戦することになり、この一戦をものにするによって優勝も可能と秘かに策を練り、期する処があった。試合は全員の体当たりでのぞみながら、敵の名キーパー丹羽、フルバック川西に妨げられ、遂に味方井原のミスキックによって自殺の一点を献じて負けた。不運の一戦といえるこの一戦に全力を傾注してただけに私達三回生は泣いた。観戦の先輩達は善戦したのに何故泣くにかた不思議に思われただろう。

第2試合は京大であったが関学戦に全力を傾注して負傷と疲れが癒しきれないうちに対戦となった。FW

の欠点を補うべくハーフ専門の小橋君を CF に据えた。この作戦は初め功を奏したかに見えたが小橋君の負傷退場で気力的にガタガタときて大量得点されて負けた。その後、商大・外語は軽く一蹴、最期に関大と戦い接戦の末3:2で快勝リーグ成績3位となった。

リーグ終了後高等大会が初めて甲子園で行われ我が校は難なく優勝戦まで勝ちすすんだ。優勝戦は横浜高商で丁度この試合まえに関西選抜の紅白試合があり、当校の前川君が出場しているのを檜崎講師ならびに田中部長に見つけられてしまった。前川君から紅白試合出場の話があった際、私はあまり軽く考えており優勝戦も軽く、軽く一蹴できると思っていたのであるが、重大な優勝戦を控えて個人としての選抜のための体力の消耗は学校の名誉を考慮しない軽率な行為であり、学生としての精神的に許せない。優勝戦に参加させないとの厳重な教訓を受け、もし無理にでも参加させればサッカー部から除名させると迄極論された。私としては前川君を試合に失うことは全員の勝つ自信に影響があり苦慮に立たされた。試合時間も迫ってくる。遂に意を決して全員に已む無き事情を話し、前川君の欠場は私達の団結で補なおうではないかと計った。全員の堅い決意はこの時決した。試合開始のホイッスルが鳴る「頑張ろうで」と駆けだす私の頬には涙が流れていた。この一事はかえって全員の士気を昂め最初の私の一点から次々とハーフの岡田や小橋君がロングシュートで得点してくれた。観戦の前川君の気持ちも軽くなった事だろう。

優勝旗を手にした感激は私達の唯一の最後の思い出となった。

この年のチームはFWが揃わなかった割に、バックスが確りしていたのは三年目と同型だと言える。大谷君の四年目はFWが傑出していた割にバックスが弱かったと思われる。華やかなゴールゲッターの陰に絶えずボールに忠実に動き、確実にディフェンスし、パスする縁の下の力持ちが必要なのはサッカーの特長であり、バックの力が如何に攻撃の原動力になるかを痛感させられた。

回生	4	3	3	5	5	5	4	3	4	4	4	主将	MG
	木原	川野	中浜	岸井	岡田	小橋	長田	上山	磯野	前川	松本	上山	臼井
	GK	LF	RF	LH	CH	RH	LW	LI	CF	RI	RW		